

事後評価シート

調査研究課題名	運輸分野における CO2 排出量削減施策とその総合的評価手法に関する調査研究
担当者	総括主任研究官 長谷知治、研究官 加藤賢
① 当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、我が国の運輸分野における CO2 排出量削減を推進するため、運輸分野では活用が進んでいない排出量取引制度、クレジット関連制度の活用可能性とその方策について検討すること、また、排出量削減の施策評価について、排出削減量等の直接的効果のみならず、渋滞の緩和や自動車事故の減少等の副次的な効果をも含めた評価手法を確立することを目標とした。</p> <p>調査研究の成果として、我が国の運輸事業者の排出量削減を推進するための方策としての、クレジット関連制度の活用方法のあり方を提示することで、また、排出量削減施策の総合的な評価手法についての考え方についてケーススタディを用いながら提示することで、当初の目標を達成できたものとする。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>本調査研究では、排出量削減施策のあり方については、諸外国及び我が国の排出量取引制度、クレジット関連制度を概観した上で、運輸事業者、事業者団体、荷主事業者等へのヒアリングを実施し、これらの制度の活用可能性について検討を実施した。総合的評価手法については、諸外国及び我が国の政府、地方公共団体の施策評価を概観し、副次的な効果として考え得る施策の効果を抽出し、項目別に整理すると共に、ケーススタディを用いて具体的な評価方法の検討を行った。</p> <p>本調査研究の成果は、政策部局が運輸分野における CO2 排出量削減施策を検討するにあたって、施策の策定や、施策の効率的・効果的な実施に当たって有効な方策を提供し得るものである。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究を進める過程で随時有識者ヒアリングを実施し、有識者の皆様からご助言をいただいた。有識者は、環境調和型ロジスティクスシステム、交通政策、交通計画や政策評価等に知見を有する学識経験者に就任いただき、様々な角度からご意見をいただいた。あわせて、運輸事業者や事業者団体、荷主事業者等への意見聴取を実施し、現状における CO2 排出量削減の取組の実態を把握した。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページで広く公表することを予定している。また、本調査研究の結果が、今後の我が国の運輸分野における CO2 排出量削減のあり方を政策部局が検討するための基礎資料として活用されることを通じて、将来の地球温暖化防止等に資することが期待される。</p>
⑤ その他	<p>調査研究内容を PRI Review 47 号、49 号に掲載するとともに、当研究所が主催した平成 24 年度研究発表会等においても成果の一部について報告を行っている。</p>